

【視察調査報告書】

| | |
|----------|--|
| 会 派 名 | 八王子市議会公明党 |
| 参 加 議 員 | 【議員】9名 村松徹 五間浩 中島正寿 美濃部弥生 渡口禎 久保井博美 日下部広志 森重博正 古里幸太郎 |
| 日 程 | 令和8年(2026年)2月18日(水) 1日 |
| 詳 細 | |
| 視察日及び視察先 | 2月18日(水) 青梅市 |
| 視 察 内 容 | 私立小中学校の給食費無償化の実施について |
| 概 要 | <p>1. 無償化に至った背景</p> <p>青梅市は「こどもまんなかの街づくり」の理念のもと、2024年度より公立小中学校の給食費無償化に踏み切った。大勢待(おおせまち)市長の公約である「学校給食費・保育料の完全無償化」を具体化させたもの。</p> <p>東京都からの補助および「青梅市こどもまんなか応援基金」の取り崩しでスタートしたが、2024年度3学期分から都の補助割合が2分の1から8分の7に引き上げられたのに伴って2025年度、私立学校に通う児童・生徒の給食費無償化(給付金支給)に踏み切った。</p> <p>なお、国立小中学校に通う児童生徒も給食費無償化の対象とし、さらに保育園・幼稚園児も「おかず」は無償としている。</p> <p>2. 施策運営の状況</p> <p>対象=学校教育法第1条に規定する私立学校などに就学する児童生徒 給付額=小学生4,500円/月 中学生5,500円/月 対象月数=年間最大11か月(8月と9月は合わせて1か月分と算定) ※転入・転出の場合、日割り計算はせず、月単位で判定 申請・支給の手続き 新規申請=本人確認書類、口座情報などを添えて市長に申請 前年度受給者=プッシュ型支給を実施。行政事務を効率化する 対象者数(2026年2月17日現在) 193人(対象者220人) 小学生52人(同60人) 中学生141人(同160人) 予算額=1,458万2,000円 給食費相当額給付金=1,297万円、職員報酬(1人)156万円など</p> |

| | |
|--------------------------------------|---|
| | <p>3. そのほか</p> <p>財源の面では市独自の「こどもまんなか応援基金」の取り崩しを財源としている。同基金は2023年度末に3億円でスタートし2024年度末は2億1,238万円に減少している。同基金は、給食費無償化だけでなく子育て支援策全般に活用しているとのことだった。</p> |
| <p>所 感 等</p> <p>(意見・課題・本市への反映など)</p> | <p>東京都内の各基礎自治体における給食費無償化の取り組みは、東京都の補助制度の立ち上げが起爆剤となり、2024年4月に特別区から始まっていった。</p> <p>八王子市においても同年8月末(2024年度2学期)、初宿和夫市長が市長選に掲げた公約を実現する形でスタート。当初、東京都の補助率は2分の1だったため、市の自己負担は23億円ほどと想定されたが、都内(三多摩地域)で無償化ができる自治体とできない自治体に分かれたことから、都は8分の7に補助率をアップした。これにより、都内すべての市区町村が給食費無償化に踏み切っている。</p> <p>市区町村立の小中学校間では格差がなくなったが、私立小中学校の児童生徒の給食費について、保護者から公的補助が入らないのは不公平、との声が早い段階から寄せられていた。ここに光を充て、都補助がない中、多摩地域で具体的手立てをした先駆的自治体として青梅市は位置づけられる。</p> <p>「こどもまんなかの街づくり社会」を標榜する現・大勢待市長の政治的リーダーシップによるものと考えられる。</p> <p>青梅市は給食費無償化の対象として、市立に私立を加えただけでなく、国立の小中学校も無償化し、さらに幼稚園・保育園の給食費のうち「おかず」部分を無償化した。私立学校に在籍する限り、不登校やアレルギーで給食を食べられない児童生徒にも給付金を支給する。その徹底ぶりに感銘を受けた</p> <p>東京都も2026年度当初予算の中で、私立小中学校の給食費無償化を実施しようとする自治体に2分の1を補助する予算を計上した(残り2分の1は市区町村の負担)。一人当たり最大6,754円/月が補助される。2分の1という補助率が十分かどうかはともあれ、東京都がまずはそうした認識に立ったことは画期的なことと思われる。</p> <p>同じ市民でありながら、通わせる学校が公立か私立かの違いによって、給食費が無償になるのか、きっちり払わなければならないのかが決まるのは不公平感があり、確かに是正されなければならない課題と認識する。食材費高騰のご時世であればなおさらだ。本市も同様制度の実施に向けて前向き、かつ速やかに検討すべきと提案する。</p> |

視察の様子

説明者 青梅市 子ども家庭部 青木政則部長
同部子ども育成課 茂木正課長
説明補佐 青梅市議会 山崎勝議長、山内公美子副議長

議場にて集合写真を撮りました

